

NEWS LETTER

自分の持つ術(すべ)を 全部使って伝える力って?【後編】

前編のお話...



6歳と0歳の子供を持つ私。
子育てについて悩んでいた時、
セルラスの講演会を見つけ、参加。
『人としての土台を育てる』という話にひかれた。
活動の中身に戸惑いながらも
自分の中の変化を感じ入会を決意

1.心の耳が開花!?(私の変化)



入会後の大きい変化としては、
学生時代、外国語に拒絶反応を起こしていた耳が
音を聴こうとしていることです。
結果、シャドウイングも今では抵抗がなくなり、
家事をしながらBGM代わりに聞いています。

最近ではシャドウイングを息子に披露して
「ママすごいじゃん!」と褒められて喜んでいるほど!
まだ入会して数ヶ月ですが、
《心の耳が開花した》かのように感じています。



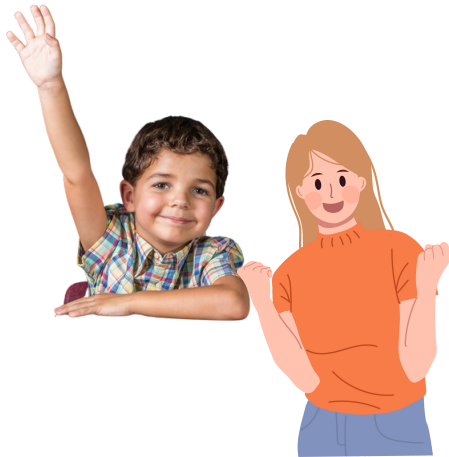
しかも現在11ヶ月の娘も、私がシャドウイング
を始めると「あ〜あ〜」と一緒に声をだします。
彼女の中でもなにかが開花し始めているのかも
しれません。

2.STEP BY STEP (それぞれの成長)

入会してから6歳の息子は毎週のピアザを一度も休みたいと言ったことがありません。私が本人の許可なく欠席の連絡を入れようものなら「何で勝手にお休みにするんだ!」と怒り出すほどです。



ピアザ
行きたいのに!



先日は自分からプレゼンしたいとピアザで手を挙げました。

緊張して二言三言しか話せませんでした。人前で話すことが苦手な息子にとっては大きな一歩で、やり終えた後の達成感に満ちた表情は、母親として嬉しく、愛おしい気持ちになりました。



夫はピアザにはまだ一度も参加した事がないのですが、私たちの様子を見ていて、「何だか羨ましくなってきた…」と言います。なぜならセルラスに入会を決めたタイミングで夫は海外とのやり取りが多い部署へ異動になり、一気に多言語に触れる機会が増えたからです。



当初は不安そうにしていたのですが、実際流暢には話せなくても相手に向き合い伝えようとすると何とかできるというのです。

私はそれを聞いてなるほどなあと思いました。

これまで私は
「間違った英語を話してしまったらどうしよう」
「上手に話せなくて変に思われたら嫌だなあ…」
と行動するよりも、恥をかきたくない気持ちが先行していて話せなくなっていたことに、改めて気が付きました。



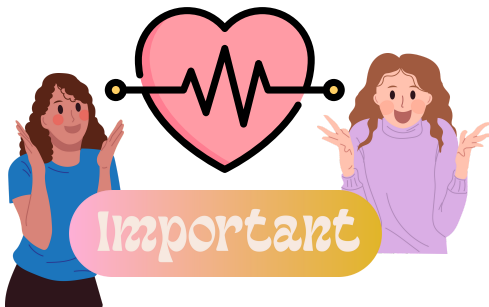
3. コミュニケーションの = ピアザ 土台を養う場

ピアザでは「伝えようとする行動」を誰も笑ったり馬鹿にしたりする人はいません。
むしろ受け入れてくれます。

あなたがそんな風に思ったことが
素敵ね



と大切にしてくれます。その安心感が「言ってみよう！」
「やってみよう！」につながるのかもしれない。



セルラスでの活動を始めた頃は
「外国語習得のための習い事」のように
感じているところがありました。
でも今は、人間（ヒト）とコミュニケーションを
とるうえで大切な《土台を養っている場》だと
感じています。

きれいにカッコよくなんて見栄を張らずに、とにかく

自分の持つ術を全部使って伝えてみる

それがセルラスを始めてから私の中で起こった
一番の大きな変化なんじゃないでしょうか。

